

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 国際交流を推進し、国際理解を深めるとともに、コミュニケーション能力、英語能力を伸ばさせる。さらに、英語の民間試験の積極的な受験を奨励する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>高女グローバル研修in USAの参加者40名を確保し、参加した生徒の中で「行って良かった」と考える生徒の割合が90%以上である。</li> <li>上記以外のグローバル人材育成のための講演会等の各プログラムに満足している生徒が80%以上である。</li> <li>3年の時点で、英検2級相当以上の生徒の割合が90%以上である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去4回課題を踏まえ、業者・職員間の連携を図りながら、内容をさらに充実させる。また、情報収集にも努め、臨機応変な対応をする。発表会やWebを活用し、生徒や教員への研修内容や成果の周知に努める。</li> <li>全てのプログラムの改善、効果的な情報発信に努め、魅力的なプログラムを実施する。</li> <li>英語科との連携のもと、実践的なコミュニケーション能力育成のため、さらなる授業改善や検定に関する情報収集に努める。学校申し込みの機会を設け、受検を促す。</li> </ul>						
	2 探究活動を通して、主体的に課題解決に当たれる資質と能力を育て、さらに物事の本質をとらえる視点を養い、国際社会で活躍できる力を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な探究・学習の時間(課題研究など)に、主体的に取り組んだと自己評価している生徒の割合が80%以上である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高女の総合的な探究において、探究活動推進委員会や各関連機関と連携し、教員間の共通理解のもと、外部機関の訪問やフィールド調査等を推進し、「課題研究」の内容整備をさらに充実させる。また、指導体制を整える。</li> </ul>						
	3 新教育課程を円滑に推進し、併せて「新大学入試制度」への対応の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書の貸し出し数が、年5500冊以上である。</li> <li>課題研究など教育活動に必要な図書が手に入りやすいと感じる生徒が70%以上である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒・職員の図書館利用及び図書の貸し出し数の増加を図るため、きめ細かな図書館運営と魅力ある図書館づくりを心掛ける。(読書カード、職員への購入希望図書調査)</li> <li>課題研究の充実に対応した、図書の整備とレファレンス機能の充実を図る。</li> </ul>						
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	4 自己の明確な目標を持ち主体的に学習する姿勢と継続的な学習習慣の確立を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>新学習指導要領に対応した教育課程を完成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現教育課程が抱えている各教科の問題の解決を図りながら新教育課程完成に向けて各教科の意見を吸い上げ調整する。</li> </ul>						
		<ul style="list-style-type: none"> <li>学習に対する生徒の達成感、満足感を持っている生徒が80%以上である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科、学年と連携し授業やLHRを用いて生徒が主体的な学習を維持するための方策を実施する。</li> </ul>						



羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
	10 課題を抱える生徒への対応は、生徒指導・教育相談・スクールカウンセラー・担任・学年等の連携したチームで情報を共有して対応し、外部機関とも連携する。	・学期毎に教育相談週間と、いじめ悩みアンケートを実施することで、不安や課題を抱える生徒へ対応する。相談部の定例会議で情報の共有を毎週行い、必要に応じて外部機関とも連携する。	・定例の教育相談会議を実施することで生徒情報を共有し、担任、部活動顧問、学年、教育相談部、スクールカウンセラー等による支援チームを組織して対応する。必要に応じて外部機関とも連携する。						
	11 生徒主体の学校行事を通して、自主性、寛容性を育み、リーダーシップとコミュニケーション能力の伸長を図り、協力・協働活動を通して生徒の孤立を防ぐ。	・クラス全体で意欲的に行事に取り組み、それぞれの立場で活動に貢献するなどして、満足している生徒が80%以上である。	・行事への取組を通してリーダーシップを育成するとともに、協力して成果をあげるよう積極的に貢献できる能力を高める。						
	12 目標に向かい他者と協力する体験を通して、思いやりがあり、高い志を持つ、バランスのとれた人材を育成する。	・各生徒組織内の人間関係が健全に保たれ、互いに協力したり支えあえていると感じている生徒が80%以上である。	・他者の特性や能力を鑑みて、適切な助言や支え合いの心を育成するようにする。						
	13 生徒個人の、そして部全体の達成目標を生徒自らが設定し、工夫して部活動を運営する体験の機会を作る。	・部活動の内容や成果、教員の指導に満足している生徒が80%以上である。	・部活動と学習の両立や目標に対して友達と励ましあいながら果敢に取り組める力を育む。						
	14 技術向上と学習時間確保のための工夫ある練習を計画し、個人と部の目標を達成させる。	・個々の目標を達成できていると実感する生徒が80%である。	・生徒個々のニーズを理解することにつとめ、学習との両立を促す指導を心がける。						
	15 週に一日、長期休業中の一定期間の部活動休養日を設け、生徒の健康と学習の充実を図り、併せて教職員の健康に寄与する。	・適切に休養をとり、健康や学習に配慮し、健全に取り組んでいる生徒が80%以上である。	・休養日等を計画的に明示し、生徒の健康や学習活動に配慮した活動を行う。						
		・学校保健委員会を年2回以上、安全衛生委員会を4回以上開催する。	・学校保健委員会及び安全衛生委員会を計画的に開催し、生徒・職員の健康促進を図る。						
16 本校の置かれた立場を生徒・教職員ともに理解し、仲間を思いやり、命を大切に学校生活を構築する。	・校内を整理整頓し、安全で健康面に十分留意して生活できている生徒が80%以上である。	・整理整頓や清掃活動に職員生徒ともに熱心取り組む。							
	・年5回の教育相談だよりを発行する。	・良好な人間関係の作り方やストレスを減らす方法、互いに尊重する意識の高め合いを育む。							

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
	17 登下校における交通規則の遵守と安全確認を心がけ、時間と心に余裕を持った行動・生活を確立する。	・年間の自転車事故件数が7件以内である。	・登校時指導の充実した交通安全教室の早期開催や便りなどの発行により、安全教育の向上を図る。						
	18 学校施設の安全点検、環境整備に努め、事故のない安全な学校環境を整備する。	・各清掃担当者が場所別点検表を月1回提出する。 ・年2回防災避難訓練を実施し、防災意識を高める。  ・校内巡視を毎日、校外巡視を毎週実施する。	・場所別点検表を活用し、学校安全点検を定期的に行う。 ・現実に近い形での防災避難訓練を実施し、生徒職員の防災意識を高める。  ・労務職員による施錠巡回に合わせ、目視による確認を行うとともに、事務長、事務職員による敷地内外の巡視を実施する。						
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	19 個別の進路相談により、志を高く持たせてワランク上を目指す意識を醸成し、学力の伸長を図る。	・個別の進路相談などにより、自己の現状を認識し、通常の授業以外に土曜講座・課外補習・特訓講座等を受講することで、学力の向上に努めようとしている生徒が90%以上である。	・生徒面談等の機会を使い、生徒に現状を正しく認識させ、それぞれの講座・課外・補習ごとにターゲットとなる生徒を明示したり、テーマを持たせることで、より多くの生徒が参加するように工夫する。						
	20 「椎樹プラン」を活用し、キャリア教育を通して、早期に進路目標を明確化し、学習への動機付けを図る。	・自己の将来を考え、興味関心や得意分野などを職業と関連づけて進路目標を設定し、その実現に向かい努力している生徒が80%以上である。	・「椎樹プラン」の中の、生徒が充実感を得られる進路行事等を積極的に活用することにより、自らキャリア意識を高め、進路実現のためという認識を持って学習に取り組む姿勢を育成する。						
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	21 学校公開・学校評議員会・学校評価アンケート等を活用し、地域や保護者の視点を生かし、地域に開かれ、より信頼される学校を目指す。	・保護者向けの「公開授業」を年5回程度実施する。  ・中学生向け学校説明会や施設見学会を開催するとともに、学校評議員会は年2回開催する。	・PTA総会や学年PTA等の機会を活用して授業公開を行う。  ・説明会は、参加者にアンケートを実施し、内容や開催時期などの次年度に向けた説明会の検討データ収集に勤める。						
	22 学校説明会、中学校訪問等の広報活動に学校全体で計画的かつ積極的に取り組む。	・学校説明会の参加者が1100人(生徒)以上である。	・学校説明会を生徒主体により充実させ、複数回実施する。						
	23 Webページ、学年通信、学校通信、各新聞社等を通して、本校の教育活動の特徴を積極的に公開、情報発信して、広く関係者の理解を深める活動に積極的に取り組む。	・学校行事終了後にWebページを随時更新する。 ・「高女通信」を定期的に発行する。	・Webページを情報発信の柱と位置づけ、タイムリーな更新とデザインの整備をはかる。 ・「高女通信」を適宜発行し、学校の教育活動を家庭に向けて効果的に発信する。						
	24 本校のよさを中学生のみならず小学生にも伝え、早期に本校への志望の確立を働きかけるための広報活動を積極的に進める。	・高女の良さを伝える「学校案内」を充実させ、高女の広報に役立たせる。	・「学校案内」を多角的に充実させ、中学生等に高女の教育活動をアピールする。						